Ⅲ 「学習者主体の授業」による学びの質の向上

Ⅰ 「学習者主体の授業」は，具体的にどのように進めればよいですか

Answer

育成する資質・能力を踏まえた上で子供に学習を委ねる場面や，子供自身が自己選択・自己決定できる機会を意図的に設定しながら進めていくことが考えられます。

○ 「学習者主体の授業」では，子供が自ら「問いを発見する」，「解決の方法を見通す」，「課題解決まで試行錯誤を繰り返す，協働する」，「自らの学びを振り返り，次に生かす」といった活動に取り組み，各教科等の「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けていきます。その際，問題解決の場面において，子供がＩＣＴや，ノート，ワークシート，具体物などの道具等や，個，ペア，グループなどの学習形態，あるいは学習時間も自己選択・自己決定しながら学習に取り組む姿が考えられます。

○ また，問題解決の場面において，図や言葉などを用いた解決方法や，学習目標などの課題設定までも自己選択・自己決定しながら学習に取り組む姿も考えられます。

○ ところで，このように子供に委ねる授業は，いわゆる「放任」に当たるのでしょうか。

○ 私たちはそうは考えていません。「学習者主体の授業」が目指すものは，子供たちが自己肯定感や自己調整力といった非認知能力も含めた「学びに向かう力，人間性等」に加え，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」の資質・能力をバランスよく身に付けることです。

○ その実現に当たっては，学習指導要領等を用いた入念な教材研究により，子供に育成する資質・能力を分析することから始まり，単元・題材を通して各教科等における「見方・考え方」を働かせながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させるよう，学習環境整備も含め，授業をデザインすることが重要です。

○ そして，授業毎など不断のＰＤＣＡサイクルを回すことが求められます。

○ 以下に，「教員主導の授業」と「学習者主体の授業」の特徴を例として示します。

【「教員主導の授業」では…】

～子供の授業中の様子～

- □ 子供が個々に教師に向かって話す。
- □ 子供がただ板書を写している。
- □ 教員の指示を待っている。
- □ 挙手をする子供が決まっている。
- □ ノートへ積極的に書こうとしない。
- □ グループ学習ではいつも見ているだけの子供がいる。
- □ 対話に目的がなく，ただ話している。

～教員の姿勢～

- □ いつもしゃべっている。
- □ 子供の発言を解説する。
- □ 子供と一問一答が多い（黒板の前から離れない）。
- □ 板書を書くこと，写させることに徹している。
- □ 挙手をする子供（同じ子供）に指名をする。
- □ グループの代表の子供に順番に発表させる。

授業	・同じ内容を同じ方法で，同じペースで進める授業 ・教師の指示通りに進められる授業
子供の姿	・受け身で教師の指示を常に待つ姿 ・指示や内容に疑問を感じず行う姿
教員の姿	・「知識及び技能」といった「見えやすい学力」に重点をおいた指導をする姿 ・子供が周りと同じように行動することを前提とした姿

（出典）「子供が自ら学びだす「教えない授業」を創る【令和5年４月10日】（ぎょうせい）」を基に作成

【「学習者主体の授業」では…】

～子供の授業中の様子～
□ 子供が自ら問いをもつ場面がある。
□ 子供が問題解決に向けて見通しをもっている。
□ 子供が黒板，教科書，ノート，ワークシート，タブレット端末等を自分で選択し，学びを進めている。
□ ネット環境を活用し，様々な角度から情報を適切に集めて考えをまとめている。
□ 子供が問題解決のときに，分からない友達に教えたり聞きに行ったりしている。
□ 子供が授業内容によって個，ペア，グループで学ぶことを選択している。
□ 子供が各教科等の「見方・考え方」を働かせる場面がある。
□ タブレット端末のアプリなどを活用し，友達と意見を比較しながら考えている。
□ 発表する相手を意識し，著作権などに配慮した発表データをつくっている。
□ 子供全員が考えを出せるホワイトボード･短冊･付箋・タブレット端末等を使っている。
□ 子供が友達の意見に関連付けて自分の意見を発表している。
□ 子供が自分の言葉でまとめを書き，まとめた内容は課題と一体となっている。
□ 子供が学んだ内容や，自分の学び方についてそれぞれ振り返りを行っている。

～教員の姿勢～
□ ＩＣＴを活用して資料等を大きく見せている。
□ 端末を持ち帰らせるなどして学びが連続する家庭学習の工夫をしている。
□ ＩＣＴを活用し，友達と協働できる学習の工夫をしている。
□ 子供が一人で考える時間と協働する時間のバランスを工夫している。
□ 子供が，各教科における「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けているかどうかを見取っている。

※ イラストは「Image Creator」（画像生成AI）において「ICTでグループ学習をいきいきと楽しそうに行う授業 教員は子供を見守る デジタル アート イラスト」と入力し，作成

授業
- 子供それぞれの興味･関心や学習進度に応じた授業
- 子供が解決の方法を自分なりに選択･判断する授業
- 子供が自分の学びを振り返り，次に生かしていこうとする授業

子供の姿
- 意図をもって，主体的に課題に取り組む姿
- 一人一人が自分の課題解決に向けて，試行錯誤を繰り返し，学びを調整する姿
- 協働してものや考えを創り出す姿

教員の姿
- 「思考力，判断力，表現力等」といった「見えにくい学力」や「学びに向かう力･人間性等」といった「見えない学力」も大切にする姿
- 子供たちを信じ，可能な限り学習を委ねる姿
- 一人一人のよさに着目し，そのよさを伸ばそうとする姿

（出典）「子供が自ら学びだす「教えない授業」を創る【令和5年４月10日】（ぎょうせい）」を基に作成

2　「学習者主体の授業」を進める上で，教員はどのように関われればよいですか

Answer

教員は「ファシリテーター的な役割」として，子供たちそれぞれの学びを見取り，指導に生かすことを重視して関わることが大切になります。

○　授業を山登りで例えてみると，授業の目標となる山頂を目指すルートは様々あります。どのルートをどれくらいの時間でどのように登るのかは，人それぞれ違います。

○　そのことを踏まえると，授業において，教員が準備するものや学習形態，時間などの全てを一律に示してしまった場合，子供たちはどのように感じるでしょうか。

○　子供は「有能な学び手である」と信じて，まずは子供たちに委ねてみる。そして，子供たちがどのようにつぶやいているのか，何を書いているのかという姿（事実）をしっかりと見取り，その姿を認める。その上で，困っている子供が求めたタイミングで必要な内容を提示できるように万全に準備しておく。

○　このように支援することが「ファシリテーター的な役割」であり，こうした関わりによって，子供たちは主体的に学習に取り組むようになると考えています。

有能なファシリテーターは例えば･･･

【前提として】子供は「有能な学び手である」と信じる。

① 準備万端!
- ○ 子供たちにとって，課題解決したくなる問題や内容等を提示する。
- ○ 本単元で育成する資質･能力を子供たちと共有する。
- ○ 学びに関わる多くの決定を子供に委ねられるように，単元構成や内容を工夫･開発する。
- ○ 試行錯誤できる場や時間を設定し，必要となる資料や教具などを準備する。

② しっかり伴走!
- ○ 子供のつぶやきや反応から，何にこだわっているか，どこにつまずいているかをしっかり見取り，認める。
- ○ 子供に合わせて，立ち止まって一緒に考えたり，新たな視点を与えたりする。
- ○ 振り返りを行わせ，子供の伸びや成長をしっかり価値付け，称賛する。

3　「学習者主体の授業」とつながる家庭学習はどのように進めればよいですか

Answer

教員は，子供が主体的に学び続けていけるように家庭と連携を図りながら，家庭学習の目標や内容，進め方等を自分で決めて目標達成を目指す「家庭学習マイゴールチャレンジ」を推進することが大切になります。

○　「学習者主体の授業」を実現し，子供がより効果的に資質・能力を身に付けていくためには，家庭学習においても，子供の主体的な取組が求められます。

○　家庭学習の基本的な進め方について，全校体制で共通理解するとともに，家庭や近隣の小・中学校と連携を図ることが効果的です。

○　学校が一律に指示する課題に取り組むのみではなく，子供が家庭学習の目標や内容，進め方等を自ら決めて取り組む割合を，学年や子供の実態に応じて，段階的に増やしていくことが大切です。

～マイゴールの例～
- ○　学校から指示された課題をしっかりとやり遂げる。
- ○　授業でよく分からなかった内容を重点的に復習したり，発展問題にチャレンジしたりするなど，自分で課題を設定して取り組む。
- ○　授業の内容や日常生活で気になることについて，とことん探究する。

など